

## ～ 令和8年度全国学力・学習状況調査について ～

4月23日、6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査について個別の結果を9月に返却させていただきました。学力調査は、国語・算数の2科目を実施しました。いずれの教科でもそれぞれに基礎知識を問う問題と、活用力をみる問題が出題されました。また、子どもの学習や生活状況を調べる児童質問紙を4月24日にオンラインで行いました。その分析結果について、学校だよりでもお知らせします。

### ○国語について

平均正答率は、全国および県の平均を上回りました。

評価の観点では「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに良好で、特に「言葉の特徴や使い方」や「読むこと」の領域で高い成果が見られました。文章の内容把握や文脈の読み取り、漢字の書き取りなどの基礎的・基本的事項はしっかり定着しています。また、文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く設問においても、良好な平均正答率でした。

一方で、「書くこと」の領域の内、集めた情報から必要な内容を抜き出し、自分の考えが伝わるように条件に合わせて記述する設問においては、全国および県の平均を下回りました。意見を書くことに抵抗はあまり無いのですが、根拠を示しながらの説明に課題があると考えられます。



### ○算数について

平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果となりました。

「数と計算」領域や、基本的な位取り記数法、帯グラフの読み取りなどは高い正答率を示し、計算力やデータの読み取りの基礎は着実に定着しています。

課題としては、「思考・判断・表現」を問う問題や「図形」領域での落ち込みが挙げられます。特に、単位量当たりの大きさ（混み具合）の式の意味の理解や、分母の異なる分数の大小を判断した理由を言葉で記述する設問、表の見方、立体図形の体積の概念理解で誤答が多く見られました。授業では解説を聞くと誤りに気付くことがよくあるため、問題文そのものの理解や、文章表記と数量にどのような関係があるかを理解することに課題があると考えられます。

### ○児童質問紙について

「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っているときは、進んで助けている」「友達関係に満足している」について、90%以上の児童が「当てはまる」と回答しており、全国・県平均よりも高くなっていました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対しては、100%の児童が「当てはまる」と回答していました。一方で、「将来の夢や目標を持っている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「人と違う意見を言っても否定されない」に対しては、全国・県平均より低い傾向が見られました。

学習面では、「友達と互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」に対して90%以上が「当てはまる」と回答しており、仲間と共に主体的に学ぶ姿が見られます。



また、タブレットを用いた文章作成・情報収集・情報整理についても、「できる」と回答した児童の割合が全国・県平均より高い傾向が見られました。英語に関しても、「英語の勉強は好き」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と回答した児童の割合が、全国・県平均より高くなっていました。反面、「国語・算数の勉強は好き」と回答した児童の割合は、全国・県平均より低い結果となりました。

今回の結果を受け、本校では今後の授業改善に努めるとともに、学習や学校生活での不安を受け止めてもらえると児童が感じられるような信頼される学校にしていきたいと考えています。ご家庭や地域におかれましても、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。